

令和2年10月28日

武庫川女子大学附属中学校・高等学校
校長 藤森陽子

SSH研究授業について（ご案内）

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動に格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて本校は、平成18年よりSSH研究指定を受け、学校独自のカリキュラム研究、各種の研修や課題研究などさまざまな事業に取り組んで参りました。昨年より第3期の指定を受け、さらに生徒の主体性を育み、深い学びへと導く手法について研究を進めております。

このたびSSH事業として、教科横断型カリキュラムを開発する中で、「探究活動」との関連で構成する学校設定科目等における教材開発と、EdTechを活用した教材開発について、下記の通り研究授業を行います。

つきましては、校務ご多用のこととは存じますが、多数の皆様にご参加いただき、ご指導・ご助言を賜りたくご案内申し上げます。

記

1 日時 令和2年11月20日（金） 13:00 ～ 16:30

2 場所 武庫川女子大学附属中学校・高等学校

3 日程

13:00～13:20 受付 正門玄関ロビー

13:30～14:20 5限 研究授業

「理系英語」 高校3年 担当 Laura・篠原・瀧川

「コミュニケーション英語Ⅰ」 高校1年 担当 中原

「国語総合Ⅰ」 高校1年 担当 宅見

「数学Ⅰ」 高校1年 担当 正法院

14:30～15:20 6限 講演会

講師 和歌山大学・工学自然科学系長

システム工学部教授 鱈坂 恒夫 氏

題名 「教科横断トピックとしてのデータ解析」

15:30～16:20 研究協議

16:20～16:30 まとめ

6 参加申し込み

本校公式サイト [URL:https://jhs.mukogawa-u.ac.jp/](https://jhs.mukogawa-u.ac.jp/)までお申し込み下さい。下記QRコードでもアクセス可能です。なお11月18日（水）までにお申し込み下さい。



問い合わせ先 〒663-8143 兵庫県西宮市枝川町4-16
武庫川女子大学附属中学校・高等学校
担当者 山田千香子(アカデミア探究部)
TEL: 0798-47-6436 FAX:0798-47-2244

研究授業内容並びに講演会概要

講演会概要	「教科横断トピックとしてのデータ解析」
<p>データはこれまで、事象の結果として周囲に散在する「脇役」的なものでしたが、いまやデータが人間の活動の先行きを決めるような能動的な素材になりつつあります。データととも「つきあう」ために、統計解析に親しむこともさることながら、最新のAI（機械学習に基づく人工知能）がいったい何をするものか、中高生の段階から概観だけでもつかんでおく必要があります。</p>	
理系英語	<p>目標は「単に英語力を高めることではなく、実践で英語を使用することで論理的思考力や様々な気づきを育てる事」と考え、昨年度（高校2年）に、研究発表や英語でのプレゼンテーションも全く経験のない状態から始めました。まず、個人で植物栽培を行い、その成長度合いを英語でポスターにまとめて発表する、というものでした。今年度は、コロナ禍でのスタートでしたが、新テーマで PowerPoint を使用しての口頭発表を目標に取り組んでいます。</p>
コミュニケーション 英語 I	<p>英検準二級程度の力を持っている、英語の上位クラスです。教科書「LANDMARK」の LESSON7 のテーマ「Eco-tour on Yakushima」の内容を切り口に、社会科の知識を用いた教科横断型の内容として日本の世界遺産について知識を深め、プレゼンテーションを行います。 普段からロイロノートなどを使い、効果的に ipad を使用して授業を実施するように心がけています。ぜひ授業をご参観いただき、様々な視点からご助言いただけますと幸いです。</p>
国語総合 I	<p>エンターテイメント『平家物語』の再現 ～自己と音とデジタルと～ 古典は今に生きる学習者にとって「別物」という意識が強い。しかし「平曲」で語られた『平家物語』は「音」の要素とともに、エンターテイメント的要素の強い作品である。本単元は、その『平家物語（能登殿の最期）』の娯楽性を学習者が見出し、それを音楽 I で学ぶ「自己表現」を取り入れデジタルツールを使って再現することを試みる。そして「古典」が「今」に連綿と続いているものだとして学習者が感じることを、本単元の綴じ目としたい。</p>
数学 I	<p style="text-align: center;">「三角比って日常生活の中で何に使われているの？」</p> <p>生徒たちから疑問の声がでてきた。このチャンスから、日常生活で使われる三角関数の使用例のうち、名探偵コナンのネクタイ(変声器)でも有名な「音・声」についての授業を実施する。まだ物理基礎を履修していないが、「音・声」が視覚化されることにより、「音・声」が数式に表されること、合成をすることでいろいろな「音・声」が作り出すことができることの楽しさをみんなで共感していきたい。</p>